

クリスチャンライフ学院・シラバス

年度・学期	2026 年度・春学期	単位	2
科目コード	M26S04		
分野・科目名	霊性の神学 「クリスチャンと芸術」		
講義日程	木曜日 4/16・4/23・4/30・5/14・5/21・5/28・6/4・6/11〔・6/18〕		
講師	渡辺 晋哉		

講義の概要	芸術家である創造主の似姿に造られた本来の人は、生涯の全ての領域を芸術的に生きるという事を、聖書から学ぶ。中世からバロック期の絵画を勧賞する。表現された神の言葉を言語的(詩的)に、神の美を感性的に捉え、神との交わりを豊かにし、霊性を深め、世界に啓示された臨在を敏感に受け取り、人と分かち合う姿勢を学ぶ。
第1回 第2回	芸術としての聖書。創造における芸術。芸術家である神。
第3回	芸術の墮罪 偶像、そして贖い
第4回	見るということ、知るということ
第5回	中世キリスト教美術～ロシア正教のイコン―目に見えない神と出会う『聖三位一体』アンドレイ・ルブリョフ(15C.)
第6回 第7回	ルネサンスのキリスト教美術―現実のただ中に神と出会う『受胎告知』フラ・アンジェリコ、レオナルド・ダ・ヴィンチ
第8回	バロックのキリスト教美術―心に迫る熱情の神・信仰告白の絵画『エッケ・ホモ-この人を見よ』カラヴァジオ 『放蕩息子の帰還』レンブラント
目標	1)創造主から与えられている芸術家としての自分を見出す。 2)芸術家としての視点を持って、世界に満ちている神の啓示を受け止め、神との交わりを豊かにし、霊性を深めていく。 3)芸術的言語、感性、霊性を持って、神の臨在を他者に指し示す

【課題】中世からバロック期のキリスト教絵画を一つ選び、画像を添付し、あなた自身がそこから得られたみ言葉の洞察を、3000 字以上で書いてください。

【成績】

授業へのコミットメント(発言など)20%

レポート 80%

【参考図書】

クリスチャンライフ学院・シラバス

- 『放蕩息子の帰還』 ヘンリ・ナウエン著 片岡伸光訳 あめんどう
- 『巨匠が描いた聖書ベストセクション』 町田俊之著 いのちのことば社